

## 2022年度 講義要綱

科 目	コミュニケーション I 必修 2単位 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> </ul>		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」鈴木八重子)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:「絵本の世界を広げる技術③」井上まどか)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」武田優)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」井上まどか)</li> <li>・子どもにとって魅力的な絵本に関する空間やレイアウトについて理解する。(認定:「絵本のある空間」飯田有美)</li> </ul>		
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養いコミュニケーション能力を身に付けることができる。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(30%) 授業態度(30%) 提出物(20%) 発表(20%)
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 豊岡短大オリエンテーション</li> <li>3 学校生活とクラス活動(入学から卒業まで)</li> <li>4 就職を見通して 自己分析(1)</li> <li>5 グループコミュニケーション(1)</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 グループコミュニケーション(2)</li> <li>8 グループコミュニケーション(3)</li> <li>9 グループコミュニケーション(4)</li> <li>10 グループコミュニケーション(5)</li> <li>11 就職を見通して 自己分析(2)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 グループコミュニケーション(6)</li> <li>14 グループコミュニケーション(7)</li> <li>15 振り返り・夏季休暇・後期の学校生活に向けて</li> <li>16 クラスオリエンテーション</li> <li>17 【認定絵本士養成講座科目】「オリエンテーション」担当:鈴木八重子</li> <li>18 コミュニケーションプログラム(1)鑑水</li> <li>19 【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」担当:井上まどか</li> <li>20 就職とコミュニケーション(1)</li> <li>21 産学連携</li> <li>22 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」担当:武田優</li> <li>23 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」担当:横山雅代</li> <li>24 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」担当:井上まどか</li> <li>25 コミュニケーションプログラム(2)鑑水</li> <li>26 グループコミュニケーション</li> <li>27 産学連携</li> <li>28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」担当:飯田有美</li> <li>29 就職とコミュニケーション(2)</li> <li>30 振り返り・進級に向けて</li> </ol>		

必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	佐藤めぐみ:実務経験のある教員□ 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○鈴木八重子:講座責任者 ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者・障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○飯田有美:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○武田優:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科 目	必修 2単位 コミュニケーションⅡ 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> </ul>		
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・書店における絵本の売り場作りの特性について理解する。絵本の流通について理解する。 (認定:「絵本と出会う④」関本練)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。 (認定:「絵本の世界を広げる技術②」井上まどか)</li> <li>・絵本が大人に与える影響について理解する。 (認定:「大人の心を豊かにする絵本」細江幸世)</li> <li>・絵本以外で人を楽しませる為の手法について理解する。 (認定:「ホスピタリティについて学ぶ」近藤学)</li> <li>・絵本を探る多様な手段(情報源)とキーワード(テーマや登場人物)について理解する。絵本検索に係わる各種段の活用法を体得する。 (認定:「絵本の世界を広げる技術①」飯田有美)</li> <li>・認定絵本士養成講座で修得した知識・技能・感性を生かした今後の計画活動について討議することにより、認定絵本士としての役割や行動すべき子を理解する。(認定:「ディスカッション」鈴木八重子)</li> </ul>		
到達目標1	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
到達目標2	保育者に必要とされるコミュニケーション力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点
授業方法	・コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 クラス活動(1)</li> <li>3 認定絵本士養成講座科目(1)「絵本と出会う」担当:関本練</li> <li>4 認定絵本士養成講座科目(2)「絵本の世界を広げる技術②」担当:井上まどか 課題提出</li> <li>5 クラス活動(2)</li> <li>6 クラス活動(3)</li> <li>7 認定絵本士養成講座科目(3)「大人の心を豊かにする本」担当:細江幸 課題提出</li> <li>8 クラス活動(4)</li> <li>9 認定絵本士養成講座科目(4)「ホスピタリティに学ぶ」担当:近藤学</li> <li>10 認定絵本士養成講座科目(5)「絵本の世界を広げる技術①」担当:飯田有美</li> <li>11 クラス活動(5)</li> <li>12 クラス活動(6)</li> <li>13 クラス活動(7)</li> <li>14 クラス活動(8)</li> <li>15 クラス活動(9)</li> <li>16 オリエンテーション</li> <li>17 クラス活動(10)</li> <li>18 クラス活動(11)</li> <li>19 クラス活動(12)</li> <li>20 クラス活動(13)</li> <li>21 クラス活動(14)</li> <li>22 認定絵本士養成講座科目(6)「ディスカッション」担当:鈴木八重子</li> <li>23 クラス活動(15)</li> <li>24 クラス活動(16)</li> <li>25 クラス活動(17)</li> <li>26 クラス活動(18)</li> <li>27 クラス活動(19)</li> <li>28 クラス活動(20)</li> <li>29 クラス活動(21)</li> <li>30 クラス活動(22)</li> </ol>		
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		

参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>佐藤めぐみ:実務経験のある教員に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」  <b>【認定絵本士養成講座担当講師】</b>  ○関本練:書店における絵本の売り場作り、及び、絵本の流通に出版に精通した者  ○井上まどか:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験をもちつ者  ○細江幸世:絵本作家、絵本研究家、絵本をめぐる活動に精通した者  ○近藤学:子ども達を対象とした商業施設の従事者  ○飯田有美:絵本検索に係わるIT技術及び図書館レファレンスサービスの双方について専門的知識を有する者。  ○鈴木八重子:講座責任者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2022年度 講義要綱

科目	保育と外国語 必修 2単位 講義	講師	玉置 充佳
授業概要	保育で使う基本的な英会話は習得。 英語の絵本な読み聞かせの練習。 英語の歌の練習。		
授業目標	保育で使う英会話を覚え、アレンジして使いこなす。 英語の歌や絵本を保育に取り入れるレベルに。 外国人の保護者とのコミュニケーションを取る。		
到達目標1	日常の保育で英語を使う。 英語で歌や絵本でレッスンをする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	試験(80%)+自己紹介ミニ絵本(10%)+授業の取り組み (10%)=合計100%
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	
授業方法	会話をリズムカルにリピートして発音とイントネーションを身に付ける、ロールプレイで練習。英語の絵本を1冊を選びクラスで発表をする。Show and Tellのプレゼン。		
授業計画	<p>1 Chants : Nice to Meet You いろいろな国の新年度 メラビアン法則 教科書: 自己紹介文 英語で誉め言葉</p> <p>2 1月のイベント New Resolution Chant: What's Your Name, Where are You From 教科書: 初対面会話 英語で励まし言葉</p> <p>3 2月のイベント: バレンタイン Chant: Good-bye 教科書: センテンス作り 公園編</p> <p>4 3月のイベント: St. Patrick's Day Chant: Have a Nice Weekend 教科書: 食事編</p> <p>5 オンライン レポート1&amp;2 締め切り 11月6日</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 10月のイベント: Halloween Chant 教科書: トイレ/身支度編</p> <p>8 11月のイベント: Thanksgiving Chant 教科書: 保育で使うその他の言葉</p> <p>9 12月のイベント: Christmas 教科書 復習: Situation Phonics Activities</p> <p>10 オンライン 4月のイベント: Easter 短大テストの勉強会</p> <p>11 オンライン 教科書: Show and Tell 復習</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 筆記試験</p> <p>14 中国語</p> <p>15 韓国語</p>		

必須テキスト	English for Use 2022			
参考文献	プリント			
担当教員の専門分野等	長年にわたって児童から中学生に英語でのプレゼンテーション、作文、英検を指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	必修 1単位 講義	講師	菊池 一英	
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標1	1. 実際の保育現場を想定して、指導内容からカリキュラム編成ができる。 2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・GW討論への貢献度(30%)、レポート提出(30%) 出席率(40%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義形式、グループワーク・トーキング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーションと領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 健康観の変遷 6 産学連携 7 リズムダンス遊び※実技 8 体育、幼児体育の歴史の変遷 9 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 10 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 11 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 12 産学連携 13 保育現場での体育的活動の実際ー自由と設定保育ー<DVD視聴> 14 健康とは何かを問い直す<DVD視聴> 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す<DVD視聴>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	体育実技		必修 1単位 講義	講師	菊池 一英
授業概要	保育現場での体育(幼児体育)実技指導の導入ー展開ーまとめの方法とスキルを身に付けます。また、同時に遊具の安全管理についても学びます。				
授業目標	様々なバリエーションの実技を実際に行ってみて、保育現場で応用できる、実践力を習得する。				
到達目標1	保育場を想定して、実技指導内容をプレゼンテーションができるようになる。 また、指導内容のねらい、留意点を踏まえ、保育過程を組み立てることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	体育実技への取り組みの貢献度(30%)、レポートの提出(30%)、出席率(40%)		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	実際の体育(幼児体育)実技、運動遊びを集団で経験する。また、DVD視聴で様々な保育現場での取り組みを体験する。				
授業計画	1 オリエンテーション、体育遊びへの導入ー展開(ふれあい遊び) 2 サーキット遊び運動遊びへの実際と方法<DVD視聴> 3 体育遊びへの導入ー展開と方法(まねっこ遊び) 4 野外での運動遊びの実際と方法(ロープワーク遊び) 5 ファンタジー遊びの実際と方法<DVD視聴> 6 産学連携 7 体育遊びへの導入ー展開と方法(ゲーム野外遊び) 8 体育遊びへの導入ー展開と方法(ジャンケン遊び) 9 体育遊びへの導入ー展開と方法(手遊び) 10 幼児体育を年間を通して展開するくねらいとその意味> 11 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？<DVD視聴> 12 産学連携 13 体育遊びへの導入ー展開と方法 造形くきのこ>とのコラボレーション 14 体育遊びへの導入ー展開と方法(ダンス遊び) 15 保育現場の運動会の実際<DVD視聴>				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	



## 2022年度 講義要綱

科目	日本語 必修 1単位 講義		講師	原 善、横山 雅代
授業概要	<p>【原】自らが運用している「言葉」なるものに対する認識を深め、正しい「日本語」を書き、話せるような知識を身につけることで、文章を書くという行為への苦手意識を軽減し、自信を持って書ける力を養う。</p> <p>【横山】日本語の豊かさを知り、自分の言葉を持つことや表現することの大切さをより深める。</p>			
授業目標	<p>【原】日本語の文章を理解する力、書き表す力、日本語の基礎力の向上を目指し、他科目でのレポートが正しく提出できるような知識を身につける。</p> <p>言葉を再認識することで、保育者としての思考を深める。</p> <p>【横山】日本語の豊かさを知り、自分の言葉を持つことや表現することの大切さをより深める。</p>			
到達目標1	<p>【原】</p> <p>1. 誤りがないだけでなく分かりやすい文章を書くことができる。</p> <p>2. 正しい形でレポートが提出できる。</p> <p>【横山】</p> <p>各回の感想に、感じたこと、考えたこと、それはどうしてかの考察をしっかりと書けるようになる。</p>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<p>成績は各講師2等分で評価し、合算して総合評価を出す。</p> <p>出席(30%) + 課題提出・実技発表等(70%) = 合計(100%)</p> <p>※毎回の感想の内容で評価</p>	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	<p>【原】2名の講師が各々専門に基づく授業を行う。前半は講義中心で、授業内で課題に取り組んでもらう。</p> <p>【横山】様々な絵本をとりあげながら、講義とワークショップ形式で進める。</p>			
授業計画	<p>1 ガイダンス・言葉について 担当:原善</p> <p>2 レポートの書き方について 担当:原善</p> <p>3 話し言葉と書き言葉の区別 担当:原善</p> <p>4 修飾語の順序について 担当:原善</p> <p>5 「は」と「が」の区別と敬語について 担当:原善</p> <p>6 産学連携週</p> <p>7 ものの見方を鍛える 担当:原善</p> <p>8 自分を対象化する 担当:原善</p> <p>9 絵本の中の言葉 担当:横山</p> <p>10 本の中のオノマトペ 担当:横山</p> <p>11 絵本と詩 担当:横山</p> <p>12 産学連携週</p> <p>13 絵本の文体 担当:横山</p> <p>14 絵本の人称 担当:横山</p> <p>15 絵本表現の現代的課題 担当:横山</p>			
必須テキスト	必要な際にプリントを配布			
参考文献	必要な際にプリントを配布			
担当教員の専門分野等	<p>【原】国語教育・日本近代文学・児童文学</p> <p>【横山】絵本、紙しばい、児童書の編集歴30年</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	情報機器の操作		必修 1単位 講義	講 師	南部 英子
授業概要	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ(ハードウェア・ソフトウェア)、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深める。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する。				
授業目標	情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付ける。				
到達目標1	情報処理技術についての基本知識を自分の言葉でまとめ、理解する。 PCで文書作成・表計算・プレゼンテーションの基本操作を体験する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内の成果物・提出物(70%)+レポート課題(30%)=合計(100%) レポート作成進捗等により各回の内容を入れ替える可能性あり。 PC操作実習は対面授業時に実施予定。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	テキストを中心に、対話的に情報処理の基本知識を整理し、日常生活に活用できる知恵として表現する練習を行う。Windowsパソコン使用し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作を実習することで、ICT機器についての理解を深める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・情報化社会とコンピュータの発展・Windowsの基本操作</li> <li>2 ハードウェア・ソフトウェア</li> <li>3 情報ネットワーク</li> <li>4 文書作成の基本①(書式設定)</li> <li>5 インターネット</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 文書作成の基本②(図形・表)</li> <li>8 情報システムの課題</li> <li>9 文書作成の基本③(ページ設定)・レポート課題再確認</li> <li>10 表計算の基本①(書式設定)</li> <li>11 情報リテラシーレポート作成・作成上の注意点など質疑応答</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 表計算の基本②(計算式・関数)</li> <li>14 表計算の基本③(グラフ機能)</li> <li>15 プレゼンテーションの概要(PowerPoint基本)</li> </ol>				
必須テキスト	『情報リテラシーと処理技術 第3版』三木紘武著 豊岡短期大学				
参考文献	授業内で適宜紹介				
担当教員の専門分野等	博士(人間科学)。比較行動論。大学非常勤講師(情報基礎科目)。 民間PCスクール、企業新人PC研修、再就職PC研修、教育現場でのICT機器の操作活用支援を経験。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2022年度 講義要綱

科目	保育原理 必修 2単位 講義		講師	岸久美子
授業概要	テキストを中心に、保育に関する法令や制度について学ぶ。 また、日本及び海外における保育の歴史について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義について理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。</li> <li>3. 保育の内容と方法の基本について理解する。</li> <li>4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。</li> <li>5. 保育の現状と課題について考察する。</li> </ol>			
到達目標1	保育に関する法令と諸制度について理解する。 また、保育の思想や歴史の変遷について、基本的な内容を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)=合計100%	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 保育の方向性と保育実践の基礎となる発達観</li> <li>2 保育に関する諸法令などからみる保育の原理</li> <li>3 保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領にみる保育の原理</li> <li>4 養護と教育の一体化について</li> <li>5 (オンライン)1～4回目の振り返り及びまとめ</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 保育実践の基礎構造について</li> <li>8 (オンライン)多様な保育内容とその方法、子育て支援について</li> <li>9 海外における保育の歴史と思想</li> <li>10 日本における保育の歴史と思想</li> <li>11 (オンライン)7～10回目の振り返り及びまとめ</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 保育者の在り方について</li> <li>14 これからの保育に向けて</li> <li>15 科目まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	改訂版Workで学ぶ保育原理(わかば社)			
参考文献	保育所保育指針解説・平成30年3月(フレーベル館) その他、授業内で随時紹介する。			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	教育原理 必修 2単位 講義	講師	小澤 由理	
授業概要	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が生まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。</li> <li>2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。</li> <li>3. 教育の制度について理解する。</li> <li>4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する</li> <li>5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。</li> </ol> 保育者として必要な教育の課題と可能性についての理解を深めること、及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。			
到達目標1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 教育の基本的な概念や教育の歴史や教育思想を学び、子どもの発達と教育との関係について理解を深める。</li> <li>2) 今日の家、地域、社会の観点から教育について理解を深め、現代の教育の諸課題の解決策について自分なりの考え方をもち。</li> </ol>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20%)＋リアクション・ペーパー(30%)＋期末試験(50%)＝合計(100%) 意欲的、積極的な授業への態度や取り組みを評価する。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	テキストを基本としながら、講義スライドによる解説と要点について説明を行う。リアクション・ペーパーを通じて学生の理解や考察する力を育む。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育、教育原理の意義・目的・特性と子ども家庭福祉等との関連性</li> <li>2 諸外国の教育思想①ソクラテス～ルソー・ペスタロッチの思想・実践</li> <li>3 諸外国の教育思想②フレーベルからデューイの思想と実践</li> <li>4 日本の教育思想</li> <li>5 子どもの発達と教育</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 子どもの権利と制度みる保育所、幼稚園、認定こども園</li> <li>8 環境を通して行う教育</li> <li>9 諸外国の教育の歴史</li> <li>10 日本における教育の歴史の変遷</li> <li>11 学校制度と義務教育</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 教育における今日的課題①学習指導要領の改訂と幼児教育</li> <li>14 教育における今日的課題②学校外との連携、危機・安全管理</li> <li>15 期末試験</li> </ol>			
必須テキスト	豊岡短期大学『教育原理』2018年改訂版			
参考文献	適宜、講義内で示す。			
担当教員の専門分野等	西洋教育史・近代日本女子高等教育史を研究。Keiko Sasaki, Yuri Uchiyama, Sayaka Nakagomi(2020). 'Study abroad and the Transnational experience of Japanese women from 1860s-1920s.', Espacio, Tiempo y Education Vol.7 No.2, pp5-28.			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 2単位 講義		講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では、①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深め、子育て支援のあり方について幅広い視点を身につけること、②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと、③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや家庭、家族についての幅広い視点を身につける。</li> <li>・「子どもの最善の利益」「ウェルビーイング」について理解を深める。</li> </ul>			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識を身につけること及び興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席・授業へ取り組む姿勢・小レポートなどによる総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 「子どもの権利」とは</li> <li>3 子ども家庭福祉の歴史的展開</li> <li>4 現代社会における「子どもと生活」</li> <li>5 子育てをめぐる問題</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 子ども家庭福祉と保育サービス</li> <li>8 児童虐待とは</li> <li>9 地域における子ども・子育て支援</li> <li>10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは)</li> <li>11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 子どもの「居場所」と「福祉」</li> <li>14 子どもの権利と社会参加・参画の支援</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	社会福祉		必修 2単位 講義	講師	久利 要子
授業概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新の動向を押さえながら、現場の実践に関連づけて学習する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol>				
到達目標1	1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。 2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30%) + 提出課題(20%) + 定期試験(50%) = 合計(100%)		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する統計資料やプリント、映像教材なども活用していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会福祉の理念と概念</li> <li>2 社会福祉の歴史の変遷</li> <li>3 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>4 社会福祉の制度と法体系</li> <li>5 社会福祉の実施機関</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 社会福祉の専門職</li> <li>8 相談保障及び関連制度の概要</li> <li>9 相談援助の理論</li> <li>10 相談援助の意義と機能</li> <li>11 相談援助の対象と過程</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 相談援助の方法と技術</li> <li>14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み</li> <li>15 試験</li> </ol>				
必須テキスト	『九訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2022』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅支援の現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2023年度 講義要綱

科目	子ども家庭支援論 必修 2単位 講義		講師	井上 恵理
授業概要	保育者は、子どもだけでなくその子どもの家庭(保護者)を包括的に支援する役割を担っている。そこでこの科目では子ども・家庭支援に関する制度の概要や、具体的な支援内容を理解する。特に近年問題となっている発達障害や虐待事例を取り上げ、子ども・家庭支援の担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。</li> <li>3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。</li> <li>4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	子どもと家庭を支援する児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもと家庭を支援する児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション「子ども家庭支援とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもと家庭を支える現場を知る</li> <li>3 子どもと家庭を支える現場①:乳児院</li> <li>4 子どもと家庭を支えるために必要なこと①:乳児院の現場から</li> <li>5 子どもと家庭を支える現場②:児童養護施設</li> <li>6 子どもと家庭を支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から</li> <li>7 子どもと家庭を支える現場③:母子生活支援施設</li> <li>8 子どもと家庭を支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から</li> <li>9 障害のある子どもと家庭のための生涯支援について</li> <li>10 子どもと家庭を支える現場④:障害児入所施設</li> <li>11 子どもと家庭を支える現場⑤:障害児通所施設</li> <li>12 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設</li> <li>13 子どもと家庭を支えるために必要なこと④:障害者支援施設の現場から</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 学期末試験</li> </ol>			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2022』全国保育士養成協議会(監修)、西郷泰之・宮島清(編著)、中央法規			
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2022年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 2単位 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。 子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 保育士として必要な人権意識がもつことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15%)+提出物(75%)=合計100% 積極的な取り組みに期待します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護とは？(理念と概念)</li> <li>2 社会的養護の歴史</li> <li>3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割</li> <li>4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護</li> <li>5 施設内虐待の防止</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 児童虐待</li> <li>8 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職</li> <li>9 養護の基本原則</li> <li>10 家庭養護</li> <li>11 施設養護の実際(支援内容)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 施設養護とソーシャルワーク</li> <li>14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など)</li> <li>15 社会的養護と地域福祉、今後の展望</li> </ol>			
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」原田旬哉他編著 萌文書林 「ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック」中央法規			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%



## 2023年度 講義要綱

科目	保育者論 必修 2単位 講義		講師	平澤 順子
授業概要	幼稚園教諭、保育士、保育教諭などに関わる法令、その制度的位置づけおよび意義についての基本的知識を身に付ける。また、保育者の専門性や資質能力について考えを深める。さらに保育の現場で求められる保育者同士の協働、家庭や地域社会および専門機関との連携の意義を知り、専門職としてのキャリア形成を図っていくことの大切さを理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の制度的位置づけを知り、その役割と意義について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	・保育者としての学びの継続、資質向上とキャリア形成についての重要性を理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(20点)、発表・レポート(30点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用</li> <li>・テキストを通して内容を理解し、レポート作成に向け、要点を整理してい</li> <li>・適宜授業内でグループディスカッションを行い、理解を深めていく</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ・自己紹介 ・シラバスを、授業の流れを説明 ・専門職としての保育者の特徴とプロの保育者としてやっていくために必要な経験と資質について学ぶ</li> <li>2 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭および施設などで働く保育者の具体的な仕事内容と保育者の役割について学ぶ</li> <li>3 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭、それぞれの法的根拠を知り、そこに示されている保育者の役割や職務内容、義務などについて学ぶ ・倫理綱領に触れ、保育者の専門家としての必要な倫理観とその判断について学ぶ</li> <li>4 ・教育を受ける者から実践する者になるために、教育に対する見方や態度を転換する必要性について学ぶ ・保育者としての素質を育てる生活体験、直接体験、教養教育を重視することの重要性について学ぶ ・幼稚園教諭免許状、保育士資格取得課程の構造と保育の現場での学ぶ意味について理解する</li> <li>5 ・保育者と他の仕事の違いについて学ぶ ・保育者に期待されていることについて学ぶ ・保育者になるために必要な学生時代の学びについて理解する</li> <li>6 明治期以降の我が国の保育の歴史の変遷をたどり、今ある我が国の保育が形成されてきた経緯を理解し、学生自身の保育者像明確にする</li> <li>7 ・保育計画の必要性について学ぶ ・保育のねらいと内容について学ぶ</li> <li>8 ・教員の仕事および義務について学ぶ ・教員に求められる研修</li> <li>9 ・教員の身分と任用について学ぶ ・教員の服務について学ぶ ・身分の保障と義務違反における対応について学ぶ</li> <li>10 ・子どもの主体的な遊びと学びと保育者の援助について理解する ・「環境を通しての保育」について学ぶ</li> <li>11 ・保育者および園長経験者からの経験談・事例を基に、現場で保育者が共に学び合い成長することの意味について考え、理解を深める</li> <li>12 ・地域における教育・保育機関としての役割を認識し、地域や様々な専門機関との連携・協働、保育の質を高めるための意識・態度について理解する</li> <li>13 ・保育者は倫理観、人間性、職務と責任の理解と自覚、知識および技術の習得と維持および向上に務める必要性について学ぶ ・経験年数や職位、専門性等を踏まえ、それぞれの職員が必要な知識や技術を身に付けていくとともに、園全体で課題を共有し、組織的に保育の質の向上に取り組む大切さについて学ぶ</li> <li>14 ・ジェンダーフリーな職場環境について理解する ・「今の子どもの育ち」の課題を整理し、「気がかりな子」への対応や障害児保育の新たな動きも含めて、家庭や地域社会でどのような子育て支援が必要かについて考える ・現代の保育現場で起こっている問題を取り上げ、課題を整理していく</li> <li>15 ・幼稚園や保育所、認定こども園など、実際の保育の場で働く保育者の声を通して、「人との関わり方」「学生生活の意義」「自分磨き」など、保育に関する専門的学習の基本を幅広く学ぶ</li> </ol>			
必須テキスト	『就職論』2019、原田敬文、丹後政俊、吉益敏文、豊岡短期大学通信教育部			
参考文献	『今に生きる 保育者論 第4版』2019、秋田喜代美・西岡薫・菱田隆昭編、みらい幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
担当教員の専門分野等	保育士としての実務経験あり。研究領域は3歳未満児の相互交渉と保育者援助。担当教科は、領域「環境」、カリキュラム論、保育・教育実習指導			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %

## 2022年度 講義要綱

科目	保育の心理学 必修 2単位 講義		講師	井上 恵理
授業概要	保育現場で子ども理解に必要となる発達心理学の基礎知識を学習する。人間の運動、知覚・認知、言語、情緒、人間関係など、発達メカニズム理解したうえで、子供の成長を促す保育者の関わりについて、学生自身の考察を深める時間とする。本科目はレポート提出が単位取得の必須条件である。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。</li> <li>2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的 関わりや体験、環境の意義を理解する。</li> </ol>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの各領域(運動、知覚・認知、言語、情緒、人間関係)の発達メカニズムが説明できる。</li> <li>・子どもの健やかな発達を促すための保育の留意点を理解する。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	提出物(50%)＋出席状況(25%)＋授業態度(25%)＝合計(100%) 授業に出席し、講義の要点はメモする。提出物は期限を守って提出すること。本科目はレポート提出が単位取得の必須条件であるので、気を付けること。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	主に講義形式で授業を進める。レポート作成などの個人作業を通じて、子どもの発達と保育者の役割についてさらなる理解を目指す。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達を促す要因 遺伝と環境</li> <li>2 学習理論</li> <li>3 動機付け</li> <li>4 学習理論の保育への応用</li> <li>5 まとめ</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 心をとらえる枠組み(1) 認知の発達</li> <li>8 身体・脳の発達</li> <li>9 言葉の発達</li> <li>10 心をとらえる枠組み(2) 関係性の発達</li> <li>11 情緒の発達</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 遊びの発達</li> <li>14 発達障害</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	『教育心理学』上長然・武田英樹 著、学校法人弘徳学園			
参考文献	『図解 史上最強 よくわかる 発達心理学』林洋一 監修、ナツメ社			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 1単位 講義		講 師	東郷 結香
授業概要	本科目では、子どもの内面を理解するために大事にしたいポイントや考え方を学習する。社会的養護や障害児者支援の現場等を例に、子どもの健やかな成長のために具体的にどのような支援が存在するか理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	・社会的養護が必要な子ども、障害のある子どもをとりまく社会情勢や課題を説明できる。 ・子どもの視点から子どもが見ている世界を想像し、関わり方を考察できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(25%) + 提出物・授業態度(25%) + 試験(50%) = 合計(100%) 授業に出席し、授業中に伝える大事なポイントを記録し、提出物の期限を守りましょう。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義と並行して、事例検討、グループワーク、視覚教材の視聴など、演習の学習を通して、保育者として子どもの状態や気持ちを想像しながら関わる力を養う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション「子ども理解」とは何かを知る</li> <li>2 子どもと関わる保育士の心構え</li> <li>3 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども1)</li> <li>4 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども2)</li> <li>5 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども3)</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども4)</li> <li>8 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども5)</li> <li>9 子どもの生活環境と心理(社会的養護が必要な子ども6)</li> <li>10 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども1)</li> <li>11 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども2)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども3)</li> <li>14 子どもの生活環境と心理(障害のある子ども4)</li> <li>15 試験</li> </ol>			
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2022』全国保育士養成協議会(監修)、西郷泰之・宮島清(編著)、中央法規			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	専門は心理学です。児童養護施設や、障害児療育、カウンセリングなど様々な支援現場に入ってきました。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 2単位 講義		講 師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて学ぶ。 2. 先天的な条件や養育、環境の影響を受けやすい面を考慮し、その子なりに健やかに育ち、自立した生活が送れるように、周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 総合的に保育することを理解し、子どもの発達を踏まえた乳幼児の保健の内容について、具体的に説明できる。 2. 具体的な保育における保健場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、保健的な対応を組み立てることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(40%) + 課題レポート2回(40%) + 日常点・授業への取り組み(20%) = 合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。			
授業計画	1 ガイダンス 授業の進め方 子どもの保健とは 2 健康の概念とは 健康指標とは 3 現代社会における子供の健康に関する課題 出生・死亡 4 子どもの疾病の予防と適切な対応 免疫機能 5 子どもの疾病の予防と適切な対応 感染症 6 産学連携 7 子どもの身体発育と運動機能の発達 標準と評価の仕方 8 子どもの生理機能の発達 9 子どもの心身の健康状態とその把握 体調不良時の対応 10 アレルギー疾患の特徴と適切な対応 11 新生児の病気、先天性疾患の特徴と対応 12 産学連携 13 慢性疾患の特徴と適切な対応 14 地域における保健活動 15 子どもの健康診断 保護者・関連機関との連携※内容、回は授業の進行等により変更することがあります。			
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社			
参考文献	授業中に紹介します。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。 子ども学分野を研究。文学博士。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	子どもの食と栄養 必修 2単位 講義	講師	島村 憲子	
授業概要	健康な生活の基本として食生活の意義・栄養について学ぶ。 発育期の子どもに対する栄養の知識を理解する。			
授業目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3. 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省) 「保育所における食事の提供ガイドライン」(平成24年3月、厚生労働省)等			
到達目標1	食べることは体への栄養と心への栄養となることを理解し、子どもが安心していられる場をつくることの必要を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席、レポート、試験による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	教科書や参考文献のプリントでの講義。 課題に対してのグループ討議をする。			
授業計画	1 子どもの心身の健康と食生活について 2 子どもの食生活の現状と課題 3 栄養素の基礎知識 糖質の代謝と栄養学的意義 4 たんぱく質の代謝と栄養学的意義 5 脂質の代謝と栄養学的意義 6 産学連携 7 ビタミン、ミネラルの代謝と栄養学的意義 日本人の食事摂取基準、食品群について 8 子どもの発育、発達と栄養について 乳汁期の栄養と食生活 9 離乳期の栄養と食生活 10 幼児期の栄養と食生活 11 幼児期の食生活上の問題 12 産学連携 13 施設における食生活、特別な配慮を要する子どもの栄養と食生活 14 食育の基本と内容 保育所における食育推進の計画、実施、評価 15 まとめ 試験			
必須テキスト	『発育期の子どもの食生活と栄養』学建書院			
参考文献	その時々参考になるものを紹介			
担当教員の専門分野等	10年間、大学の小児科医のもとで乳幼児栄養に関する研究。 その後、乳幼児・学童・成人・老人を対象にしたの栄養相談。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科目	保育内容総論	必修 1単位 講義	講師	岸久美子
授業概要	幼児教育における指導の方法や具体的な保育の過程について学ぶ。 また、保育現場の事例を通して、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基礎を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	幼児の興味や関心、発達などに応じた具体的な指導について理解する。 保育所保育指針等における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(20%)+授業態度、提出物など(30%)+学期末試験(50%)=合計100%	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	テキストを用いた講義形式。必要に応じてグループワークを行なう。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス 五領域、育みたい資質・能力の三つの柱、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)</li> <li>2 保育内容の歴史の変遷</li> <li>3 養護と教育の一体的展開</li> <li>4 園行事の在り方</li> <li>5 (オンライン)1～4回目までの振り返り及びまとめ</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 保幼小連携</li> <li>8 環境を通して行なう保育 遊びによる総合的な保育</li> <li>9 全体的計画の作成</li> <li>10 (オンライン)指導計画の作成</li> <li>11 (オンライン)7～10回目の振り返り及びまとめ</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 保育の評価と記録</li> <li>14 保育内容の現代的課題について</li> <li>15 科目まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	保育内容総論(豊岡短期大学) 保育所保育指針解説・平成30年3月(フレーベル館) 幼稚園教育要領解説・平成30年3月(フレーベル館) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説・平成30年3月(フレーベル館)			
参考文献	必要に応じて、授業内で紹介する。			
担当教員の専門分野等	保育者養成校に、ピアノをはじめ実習等の担当として約20年勤務。現在、大学院博士後期課程において保育学を専攻。日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本乳幼児教育・保育者養成学会、日本学校音楽教育実践学会他に所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・健康		必修 1単位 講義	講師	菊池 一英
授業概要	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う。領域「健康」の指導に必要となる、基礎知識、技能を身に付ける。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</li> <li>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</li> <li>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</li> <li>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</li> </ol>				
到達目標1	1. 各年齢の子どもの発達の特徴を十分に踏まえた保育内容について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みへの貢献度(10点)レポート(20点)試験(20点)		
到達目標2	2. 保育場を想定して、環境構成、保育士の配慮事項を含む、保育過程を組み立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク討論への参加度(10点)レポート(20点)試験(20点)		
授業方法	短大のレポート・試験課題に関する基礎知識を講義し、レポートを仕上げ、試験をクリアすることを優先し授業を展開します。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションと心身の発達の特徴と健康課題について、及び食生活の問題点(レポート①課題)</li> <li>2 健康育成における保育者の役割について、及び運動の意義の「社会性」の発達について</li> <li>3 虐待について、及び子どもの食生活の問題点について</li> <li>4 発育・発達における機能的発達について、及び「朝食の役割」について</li> <li>5 健康安全における、怪我への対応と処置について※オンライン</li> <li>6 筆記試験</li> <li>7 「熱中症」理解と熱中症対策、予防について(レポート②課題)</li> <li>8 「発達」について、及び「発達の分類」「発達段階・発育刺激」「身体的発達・知的発達」について</li> <li>9 運動不足における身体への影響について、及び運動不足による主な疾病について※オンライン</li> <li>10 「ストレス」について、及びストレスによる身体への影響、対処法について</li> <li>11 トレーニングの6つの原則について</li> <li>12 幼児を対象とした運動遊び「指導案」作成について</li> <li>13 スキャモンの発育曲線について</li> <li>14 運動時の脱水症状の予防と留意点について</li> <li>15 筆記試験(※対面)</li> </ol>				
必須テキスト	豊岡短期大学指定のテキスト				
参考文献	特に指定なし				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤務。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・人間関係	必修 1単位 講義	講師	湯浅 阿貴子
授業概要	領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりを通した人間関係の発達についてエピソードを取り上げ、考察する。また、保育者としてどのように子どもと人の関わりを育てていくのか、保育者としてどのような関係性を築いていくのか、子ども－養育者、子ども－子ども、子ども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</li> <li>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</li> <li>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</li> <li>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育の内容が相互に関連性をもつことを理解した上で、領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、具体的な例を挙げて説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	スクーリングにおける受講態度(50%)、課題(レポート)への取り組み(50%)、単位認定試験結果等を総合的に評価する(評価はルーブリック評価を用いる)	
到達目標2	子どもの人間関係の発達を理解し、保育実践の具体的な場面を想定しながら必要となる保育者のかかわりについて考え、自らの考えを述べることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討議やグループ活動への参加態度(50%)、発表・レポート(50%)	
授業方法				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 領域「人間関係」・ねらいと内容・視点から領域へ</li> <li>2 領域「人間関係」・領域の相補性(保育活動の総合性)と幼児期の終わりまでに育てたい10の姿</li> <li>3 子どもを取り巻く社会的環境と人間関係の発達</li> <li>4 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割①・自己概念の発達・発達の筋道と人とのかかわり</li> <li>5 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割②・人間関係の発達と遊び～乳児期～・愛着形成と保育者との信頼関係</li> <li>6 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割③・人間関係の発達と遊び～1歳児～・自我の芽生えと探索活動</li> <li>7 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割④・人間関係の発達と遊び～2歳児～・自我の形成と周囲とのかかわり・イメージの広がりのごっこ遊び</li> <li>8 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割⑤・人間関係の発達と遊び～3歳児～・自立と依存・自己主張と自己抑制</li> <li>9 子どもの人間関係の育ちと保育者の役割⑥・人間関係の発達と遊び～4・5歳児～・協同性の育ち～目標を共有しながら遊ぶ～・ルールとの共有といざこざ</li> <li>10 園生活の中にみる人とのかかわり・個と集団の育ち～私と私たち～・規範意識と道徳性</li> <li>11 遊びの中にみる人間関係・遊びの発達と保育者のかかわり</li> <li>12 人的環境としての保育者と保護者・共に育てる関係としての保護者と保育者のかかわり・人的環境としての保育者と保育者間の連携</li> <li>13 今日的な人間関係の課題・地域とのかかわりと子どもの発達</li> <li>14 保育実践を考察する①・協同的な遊びからの学びを考える</li> <li>15 保育実践を考察する②・保育計画の立案～協同的な遊びの指導案を作成する～</li> </ol>			
必須テキスト	「人間関係論」(配本テキスト)「幼稚園教育要領解説」(最新版)「保育所保育指針解説」(最新版)「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)			
参考文献	適宜配布する			
担当教員の専門分野等	保育内容領域「人間関係」			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20% %
	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	10% %



## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・環境 必修 1単位 講義	講師	今泉 良一	
授業概要	子どもは、あそびや生活を通して自ら環境に働きかけながら学びを深めていく。それを踏まえ、「環境を通して行う保育」、「あそびを通しての総合的な指導」の在り方について考察し、保育における環境の重要性について学んでいく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</li> <li>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</li> <li>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</li> <li>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	・領域「環境」のねらいと内容について理解し、保育者の役割について考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点) 短大レポート提出は単位取得必須事項とする。	
到達目標2	・環境構成を支える知識や技術を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点)	
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。</li> <li>②実践的な内容を演習形式で体験的に学習する。</li> </ol>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(講義の概要とねらい)</li> <li>2 領域「環境」の基礎知識</li> <li>3 子どもを取り巻く人的環境</li> <li>4 子どもを取り巻く物的環境</li> <li>5 子どもを取り巻く自然環境</li> <li>6 子どもを取り巻く社会的環境</li> <li>7 保育における環境構成の実際</li> <li>8 発達段階を踏まえた指導計画の作成</li> <li>9 園外保育からの学び～校外学習</li> <li>10 短大レポート作成</li> <li>11 思考力と科学性の芽生え</li> <li>12 子どもを守り育てる環境</li> <li>13 気になる子どもと環境</li> <li>14 短大試験対策</li> <li>15 まとめ、期末試験</li> </ol>			
必須テキスト	短大指定テキスト			
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』(チャイルド社)に記事を連載中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・言葉		必修 1単位 講義	講師	今泉 良一
授業概要	子どもは、周囲の大人や友だちとのかかわりを通して、様々な方法で自分の内面を表現しようとする。それを踏まえ、保育者として求められる保育技術、保育方法などについて「言葉」の視点から考察し、実践を通して学んでいく。				
授業目標	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものとの関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>				
到達目標1	・領域「言葉」のねらいと内容について理解し、保育者の役割について考察することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	期末試験(50点) 短大レポート提出は単位取得必須事項とする。		
到達目標2	・乳幼児期のことばの発達を理解し、製作・実践を通して、言語表現技術を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題提出(50点)		
授業方法	<p>①短大レポート課題に基づいて基礎的知識を講義する。</p> <p>②実践的な内容を演習形式で体験的に学習する。</p>				
授業計画	<p>1 オリエンテーション(講義の概要とねらい)</p> <p>2 ことば遊びの意義と実例</p> <p>3 絵本の分類と読み聞かせの方法</p> <p>4 紙芝居の特性と実演方法</p> <p>5 児童文化財の意義と実演方法</p> <p>6 短大レポート作成</p> <p>7 領域「言葉」の基礎知識</p> <p>8 乳幼児期のことばの発達</p> <p>9 保育者の役割と関わり方</p> <p>10 短大試験対策</p> <p>11 保護者対応における言葉かけ</p> <p>12 保育における行事の意義と言葉かけ</p> <p>13 保育者の感性と表現力</p> <p>14 短大試験</p> <p>15 まとめ・期末試験</p>				
必須テキスト	短大指定テキスト				
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』に記事を連載中。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	50% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容演習・表現	必修 1単位 講義	講師	森 麻美
授業概要	①表現することの楽しさ・面白さを自ら体験し、自己表現力を高める ②子どもの発達を意識しながら、どのような伝達方法があるのかを考察し、演習を通して実践的に学ぶ			
授業目標	1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	①保育現場で活かせる幅広い表現活動を体験し、子どもの発達を想定しながら自らの表現方法を変化させることができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(50点)	
到達目標2	②さまざまな遊びを通して、他者と主体的に関わり協働することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(40点) 発表(10点)	
授業方法	実技・グループワークを中心に授業を展開する			
授業計画	1 オリエンテーション(表現ってなんだろう?)・リズムあそび 2 手あそびパート1・子どものうた 3 手あそびパート2・季節のうた 4 リズムに合わせて身体表現あそび 5 パネルシアターあそび(オンライン授業) 6 パネルあそび・まねっこあそび(グループワーク) 7 絵本・紙芝居から表現活動へ(グループワーク) 8 創作ダンスあそび(グループワーク)・ペープサート作り 9 いろいろな表現活動の紹介(手袋・エプロン・ペープサート・うちわなど) 10 音あそび・劇あそびパート1 11 子どもの表現について(オンライン授業) 12 劇あそびパート2 13 劇あそびパート3 14 発表 15 振り返り・おわりのうた			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」11年間幼稚園勤務後、キッズと親子のたいそう教室「AMINASTIC」を開業し代表を務める。現在10園(0～5歳児)で運動遊び講師を担当。また、全国で保育士研修会やイベントなどを通し、身体を動かす楽しさを伝え続けている。チャイルドカウンセラー。アスク・ミュージック所属。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %

## 2023年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I 必修 1単位 講義		講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する教材を活用することで知識を身に付ける。 様々な環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。 本科目は、レポートの清書提出が単位取得の必須条件である。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点) 講義内容に関するレポート(50点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(10点)、実践発表(20点)	
授業方法	授業は、オンラインで行う講義・演習と対面での講義・演習・実技のアクティブラーニング・スタイルで行う。 短大のレポート課題に関する基礎知識を講義し、レポート作成を優先し授業を展開する。 なお、対面授業時には、実際に子ども達の運動遊びを体験してもらう回があるが、その際は動きやすい服装で参加すること。 ※運動遊びをする回については、事前に予告をする。 ※社会情勢や進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス・身体表現遊びとは/レポート作成について 2 リズム遊び・身体表現(実技) 3 表現と子どもの運動 4 表現とこどもの運動における援助者の役割 5 環境構成の重要性(オンライン) 6 人的環境を整える 7 レポートまとめ 8 幼児期に必要な運動とは(実技) 9 安全確認と安全管理 10 調整力について 11 園外保育と野外活動(オンライン) 12 試験対策、まとめ/運動遊び実践の計画立案・グループ決め 13 運動遊び実践① 14 運動遊び実践② 15 運動遊び実践③			
必須テキスト	併修テキスト『表現とこどもの運動』			
参考文献	授業内で適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。現在短大にて、幼児体育や健康を担当する准教授として勤務。小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験あり。保育園にて運動指導アドバイザー。専門分野:幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	20% %	専門的知識・技術	30% %

## 2022年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 1単位 講義	講師	藤村 秀子、楠野 麻衣、 国友 真知子、渡辺 容子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々な用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。鍵盤楽器や音楽の基礎知識を学び、感じたことや考えたことを自由に表現できる力をつける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学び、保育士に必要な読譜力やリズム感を養う ・様々な子どもの歌を演習し、自信を持って伝えたいことをしっかり表現する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況・受講態度(50%) + 実技試験(50%) = 合計100% 実技試験課題曲については11回目または13回目に担当講師と検討し、早めに準備する。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノを中心とした個人レッスンと②歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。グループ分けは学生ポータルで各自で確認すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(① ②に分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します) 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 産学連携 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②わらべ歌・手遊び歌の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リトミックを含む歌遊びの演習 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②互いに聞き合い、アドバイスを受け、より良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(① ②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドフォン”をお持ちください				
参考文献	子どもの指導法「音楽表現」豊岡短期大学				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2022年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 1単位 講義	講師	なかむらしんいちろう、 高木 秀文
授業概要	1. 造形表現の意義や目的、技術を学ぶため、講義と実技を実施する。 2. 学生が内なる心の思いを作品に表現し、喜び、面白さを体感する。 3. 制作の過程から保育者と子どもの両方の立場を経験する。			
授業目標	子どもの主体的活動及び保育者の援助とは何かを考え、自らの造形感、造形技術を養う。			
到達目標1		到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業態度(真摯な態度、積極的な取り組み、創意工夫、片付けなど)(10%)＋出席数(30%)＋毎回の記入プリントの内容及び提出回数・課題の完成数及び完成度(60%)＝合計(100%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	1. 実技にて作品製作を行う。 2. 幼児造形の特徴(絵画分野)について講義を行う。 *社会情勢や進行状況に合わせ内容や順番を適宜変更する★対面授業予定			
授業計画	1 ★材料配布。授業内容、準備物、提出、評価等の説明。絵を用いたゲーム。 2 こすり出し・フロッタージュ 3 丸三角四角の組み合わせ 4 ★自然物を用いた制作または野外スケッチ、もしくは絵画遊び 5 〈講義1〉絵画の発達段階について 6 産学連携 7 〈講義2〉幼児画の特徴 8 ★デカルコマニー、にじみ絵・はじき絵 9 色、貼り絵 10 紙の加工 11 ハサミ 12 産学連携 13 ★紙コップまたは紙皿工作 14 引っかき絵 15 ★工作を用いたゲーム、作品提出			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	オンライン授業の内容について基本プリント等の配布はしない。また授業の録画録音撮影は禁止。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」絵本作家を養成する学科にて長く指導。併せて自らも児童書を中心にイラストレーターとして活動。また展覧会等にて作品発表。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・言葉遊び I 必修 1単位 講義	講師	なかむらしんいちろう、 乙川 智子
授業概要	[乙川]手話を学ぶことにより表情やコミュニケーション能力を高め、聴覚障害者・児に対する接し方を学ぶ。(該当科目4コマ) 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。(該当科目11コマ)		
授業目標	<p>1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p> <p>【認定絵本士養成講座科目】</p> <p>「認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「絵本」をめぐる行為について理解する、「絵本」の定義の捉え方について理解する、「絵本」の多面性を理解するとともに、その可能性や課題を理解する</li> <li>(認定:「絵本総論」課題 中村真一郎)</li> <li>・世界の絵本の歴史について理解する、日本の絵本の歴史について理解する、絵本賞について理解する</li> <li>(認定:「絵本各論①」課題 中村真一郎)</li> <li>・絵本の視覚表現特性について理解する、絵本の言語表現特性について理解する</li> <li>(認定:「絵本各論②」課題 中村真一郎)</li> </ul> <p>以下、文字数に制限があり未記入。</p>		
到達目標1	[乙川]1, 保育士になった時に手話で聴覚障害者と会話ができる。 2, 聴覚障害者の不便さを説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み+実践発表+レポート=合計(30点)
到達目標2	認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への熱心な取り組み。課題のある場合は期日までに提出。70点【「絵本総論」「絵本各論①」「絵本各論②」「絵本各論④」「絵本が生まれる現場①」】は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となります。
授業方法	講義・実技		
授業計画	<p>1 絵本総論(絵本とは何か)課題あり 担当:中村</p> <p>2 さまざまなジャンルの絵本③(科学絵本) 担当:千葉</p> <p>3 絵本が生まれる現場② 担当:横山</p> <p>4 さまざまなジャンルの絵本①(物語の絵本) 担当:中村</p> <p>5 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>6 絵本各論②(視覚表現、言語表現から見た絵本)課題あり 担当:中村</p> <p>7 さまざまなジャンルの絵本②(昔話童話の絵本) 担当:千葉</p> <p>8 絵本各論④(メディアとしての絵本の位置づけ)課題あり 担当:手塚</p> <p>9 絵本のもつ力(様々な角度から絵本を見る) 担当:中村</p> <p>10 [乙川]保育園またはアルバイト先で使用する会話練習、まとめ</p> <p>11 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>12 [乙川]聴覚障害について(理論)、自己紹介(名前、趣味等)の表現練習</p> <p>13 絵本が生まれる現場①(作家の感性に触れる) 課題あり 担当:いのうちひろ</p> <p>14 心に寄り添う絵本 担当:細江幸世</p> <p>15 絵本各論①(絵本の歴史、絵本賞について)課題あり 担当:中村</p>		
必須テキスト	乙川:特に指定なし【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト		
参考文献	乙川:適宜プリントを使用する。【認定絵本士科目】適宜紹介する。		

担当教員の 専門分野等	<p>【乙川】 「実務経験のある教員による授業」30年以上にわたり手話指導並びに手話通訳活動中 【認定絵本土養成講座担当講師】 ○中村:絵本をめぐる活動に精通した者／絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者／絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話と作家して豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○いのうちひろ:絵本の視覚表現・言語表現に関する専門的知識を有する者／絵本作家、童話作家として豊富な経験を持つ者／物語を内容とした絵本に関する専門的知識を有する者／絵本作家、絵本の研究者、絵本をめぐる活動全般に精通した者 ○手塚:情報メディア0としての絵本の特性および我が国著作権制度と絵本の関わり、電子書籍と脳科学に関する専門的知識を有する者 ○千葉:科学絵本などに関する専門的な知識を有する者／昔話・童話を題材にした絵本に関する専門的知識を有する者 ○田部井:絵本の歴史や絵本賞に関する専門的知識を有する者 ○横山雅代:絵本・紙しばい、児童文学の編集業、他</p>			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	0 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	0 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	70(認定絵本土) %



## 2022年度 講義要綱

科目	乳児保育 I	必修 2単位 講義	講師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。</li> <li>・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</li> </ol> ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1.多岐にわたる「乳児保育」の内容について知りリアクションペーパーにまとめることができる 2.「乳児保育」について必要な事は自ら調べることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業参加状況(50%)+リアクションペーパー(25%)+テスト(25%)=合計(100%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをリアクションペーパーへ記入してまとめる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等)</li> <li>2 乳児保育はなぜ必要か</li> <li>3 乳児保育の成り立ち</li> <li>4 保育所保育指針から学ぶ</li> <li>5 人生の基礎としての乳児期</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る)</li> <li>8 乳児のこころの発達</li> <li>9 乳児のことばの発達</li> <li>10 乳児のからだ</li> <li>11 乳児保育の連携</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 保育所の1日の流れ</li> <li>14 保護者との連携</li> <li>15 まとめテスト(第8回～第14回までの授業を振り返る)</li> </ol>			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 1単位 講義	講師	佐藤 めぐみ
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。</li> <li>・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。</li> </ul>				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。</li> <li>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol> <p>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。</p>				
到達目標1	座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)		
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)、授業への取り組み(10点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入。</li> <li>・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)</li> <li>2 だっこのしかた・おんぶのしかた</li> <li>3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】</li> <li>4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方</li> <li>5 おむつ替えとおむつはずれ</li> <li>6 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】</li> <li>7 乳児保育の安全管理</li> <li>8 沐浴の仕方・清拭の仕方</li> <li>9 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】</li> <li>10 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】</li> <li>11 かみつき、ひっかきへの対応</li> <li>12 連絡帳の書き方</li> <li>13 授乳の仕方と離乳食の基礎知識</li> <li>14 授乳の仕方【実践】</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2022年度 講義要綱

科目	子どもの健康と安全		必修 1単位 講義	講師	尾近 千鶴
授業概要	1. 子どもの保健で学んだ子どもの発達・成長の特性と、心と身体の健康を維持し、増進する働きかけについて、その具体例と方法を学ぶ。 2. 子どもの生命維持に必要な知識、安全を守る上で必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの健康と安全を守る周囲の大人や社会の適切な対応について理解を深める。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。  ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省) 「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省) 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	1. 子どもの保健で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの発達に応じた乳幼児の保健的対応について、具体的に説明できる。 2. 保育における健康と安全に関する場面を想定し、環境の構成、保育士の配慮事項を含む、事故予防の観点、安全面への配慮といった保健的な対応を組み立てることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト2回(40%)＋課題レポート2回(40%)＋日常点・授業への取り組み(20%) ＝合計(100%) 意欲的、積極的な取り組みを評価します。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	対面授業と遠隔授業。Teamsの機能を活かした資料の配布と課題提出の推進を図る。 自分の考えを発表する機会を設定する。 様々な形式で演習問題に取り組み、知識の定着と臨床で活かせる知恵を身につける。				
授業計画	1 ・オリエンテーション 授業の概要、進め方、評価について・保健的観点を踏まえた保育環境および援助について知る 2 子どもの保健に関する個別対応、集団における対応 3 保育における施設管理 4 子どもの事故の特徴と事故防止、安全対策 5 危機管理と災害 6 産学連携 7 体調不良時、傷害時の対応と応急処置① 8 体調不良時、傷害時の対応と応急処置② 9 感染症の症状と対応／集団発生の予防 10 保育における保健的対応／食事、排泄、睡眠、外出、保育行事など 11 個別的な配慮を要する子どもへの対応① 12 産学連携 13 個別的な配慮を要する子どもへの対応② 14 障害をもつ子どもへの対応 15 保健計画と評価／職員間、関係機関との連携				
必須テキスト	「授業で現場で役に立つ！ 子どもの保健 テキスト」小林美由紀編著 診断と治療社				
参考文献					
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。国内外での教育機関などでの勤務。子ども学分野を研究。文学博士。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2023年度 講義要綱

科 目	障害児保育 必修 2単位 講義		講 師	井上 恵理
授業概要	本科目では、保育現場における障害児支援および特別な配慮を要する子どもの支援について学ぶ。基本的支援方法をはじめ、保護者支援や他機関連携の留意点などを講義受講、調べ学習、レポート作成を通じて理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</li> <li>2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。</li> <li>3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。</li> <li>4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。</li> <li>5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	障害児および特別な配慮を要する子どもの特性や心身の発達について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパーの提出と内容(10点)、授業内容に関するレポート(40点)	
到達目標2	障害児および特別な配慮を要する子どもの支援方法を考察し、説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	調べ学習に対する姿勢(20点)、支援方法についてのレポート(30点)	
授業方法	主に講義形式で授業を進める。 レポート作成を通じて、障害児支援についてさらなる理解を目指す。 レポートは、Wordなどの文書作成ソフトを利用して作成することを強く推奨する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害支援とその歴史的背景</li> <li>2 障害支援 各論(1)病弱児</li> <li>3 障害支援 各論(2)視覚障害</li> <li>4 障害支援 各論(3)聴覚障害</li> <li>5 障害支援 各論(4)知的障害</li> <li>6 障害支援 各論(5)自閉スペクトラム症</li> <li>7 障害支援 各論(6)注意欠陥多動症、限局性学習症</li> <li>8 特別な配慮を要する子どもの支援 各論(1)貧困家庭の子ども</li> <li>9 特別な配慮を要する子どもの支援 各論(2)外国につながる子ども</li> <li>10 特別な配慮を要する子どもの支援 各論(3)きょうだい児</li> <li>11 子どもと家庭のアセスメント方法</li> <li>12 豊岡短期大学「特別支援教育」科目試験</li> <li>13 調べ学習</li> <li>14 調べ学習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	『特別支援教育』野口和也・渡辺隼人他 著、平成31(2019)年、学校法人弘徳学園			
参考文献	授業中に適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に応じていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	35 %

## 2023年度 講義要綱

科目	社会的養護Ⅱ 必修 1単位 講義		講師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 養護の基本原則等の復習、子どもの権利擁護</li> <li>2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク</li> <li>3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助</li> <li>4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整</li> <li>5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援</li> <li>6 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア</li> <li>7 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価</li> <li>8 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援</li> <li>9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援</li> <li>10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援</li> <li>11 里親等の家庭養護の特性及び実際</li> <li>12 日常生活に関する事例分析</li> <li>13 治療的支援に関する事例分析</li> <li>14 今後の施設の方向性(小規模化等)</li> <li>15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等)</li> </ol>			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」 吉田真理著 萌文書林 「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」 原田旬哉他 萌文書林			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15% %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	15% %

## 2024年度 講義要綱

科目	保育実習 I - 2 (施設)	必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設、障害者支援施設の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や、子ども・利用者との関わりを通して対象者への理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、各現場の支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 現場における支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様な福祉施設の役割と機能、支援者の業務内容、職業倫理について説明できる</li> <li>2. 支援計画に基づいた観察、理解、関わりを深め、自ら考察して記録にできる</li> </ol>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る</li> <li>②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める</li> <li>③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける</li> <li>2</li> <li>3</li> <li>4</li> <li>5</li> <li>6</li> <li>7</li> <li>8</li> <li>9</li> <li>10</li> <li>11</li> <li>12</li> <li>13</li> <li>14</li> <li>15</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I a		必修 1単位 講義	講師	今泉 良一
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重な学習経験である保育所実習を有意義なものにするために必要な事項を学ぶ。</li> <li>・実習日誌の記載方法を体得する。</li> <li>・「認定絵本士養成講座科目」を学び、絵本への理解を深める。(該当科目3コマ)</li> </ul>				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児を対象とした絵本の特色を理解する・乳幼児が絵本に触れるための具体的取組について理解する。(認定:「絵本と出会う①」今泉良一)</li> <li>・保育、教育の現場における絵本の意義について理解する。保育、教育の現場における絵本を用いた活動の取り組みについて理解する。(認定:「絵本と出会う②」今泉良一)</li> <li>・各年齢期の子どもの発達と絵本の関わり方の特性について理解する。絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する。(認定:「絵本各論③」今泉良一)</li> </ul>				
到達目標1	・実習に臨む目的意識、実習生としての常識を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技試験(50%)		
到達目標2	・実習日誌の記入方法、指導案の作成方法を習得できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験および指導案提出(50%)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通して実習を想定し、実習生として必要な常識、スキル、柔軟性を学び、身につける。</li> <li>・無断欠席はもちろん不可であり、報告・連絡・相談の大切さを知る。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う①」</li> <li>2 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う②」</li> <li>3 発達の様子と実習生の関わり方</li> <li>4 日誌に生かす保育の観察方法</li> <li>5 保育現場職員による講義</li> <li>6 実習日誌を書く意義と記入方法</li> <li>7 実習に伴う書類の作成 事務手続きの確認</li> <li>8 手あそび、読み聞かせの指導案作成</li> <li>9 オリエンテーションに向けて</li> <li>10 保育教材作成</li> <li>11 【実技試験】手あそび、読み聞かせ、スケッチブックシアターの発表</li> <li>12 実習前後のまとめ</li> <li>13 【筆記試験】実習日誌</li> <li>14 G2・G3合同 実習わくわくタイム</li> <li>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本各論③」</li> </ol>				
必須テキスト	『千春と大吾の保育実習ストーリー』萌文書林 【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト				
参考文献	その都度紹介する。補助教材としてプリントを使用する。				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当する。大学院博士後期課程において、保育史、保育思想、保育カリキュラムについて研究している。保育雑誌『pot』(チャイルド社)に記事を連載中。 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○今泉良一: 赤ちゃん絵本、ブックスタートなど地域での育児支援活動や家庭での絵本の読み聞かせの現状に精通した者・保育・幼児教育現場及び学校現場における子どもと絵本の関りの現状に精通した者・子どもの知的、社会的発達と絵本の関りに関する専門的知識を有する者				
職業に対する理解	20%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10%		

この授業で 身につく 「6つの力」	社会人としての基本	20% %	主体性 素直 思いやり	10% %
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	30% %



## 2023年度 講義要綱

科目	保育実習指導 I b		必修 1単位 講義	講師	井上 恵理
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol>				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)</li> <li>3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)</li> <li>4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)</li> <li>5 関わりの技術②:「視点」を養う</li> <li>6 子どもの育ちの理解③:発達障害</li> <li>7 関わりの技術③:療育場面より</li> <li>8 関わりの技術④:療養介護場面より</li> <li>9 施設実習先の発表</li> <li>10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備</li> <li>11 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)</li> <li>12 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)</li> <li>13 実習日誌の理解と練習(1)</li> <li>14 実習日誌の理解と練習(2)</li> <li>15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること</li> </ol>				
必須テキスト	『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2022』全国保育士養成協議会(監修)、西郷泰之・宮島清(編著)、中央法規				
参考文献	授業内で適宜紹介する。				
担当教員の専門分野等	臨床心理学が専門。数年間、教育相談室で子どもや保護者の発達相談等に就いていた。現在も臨床心理士、公認心理師として活動中。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

## 2022年度 講義要綱

科目	子どもと保育	選択必修 4単位 講義	講師	鈴木 八重子
授業概要	本講義では、保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのか、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育、および保育内容について関心を深める。</li> <li>・保育現場活動に興味を持って取り組む。</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育、および保育内容について関心を深め、経験したことを表現することができる。</li> <li>・保育現場活動に興味を持って取り組み、自分の課題を意識することができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(30%)＋課題提出(30%)＋授業への参加態度(20%)＋実技・ポスター発表(20%)＝合計(100%) 手遊び、折り紙、絵本の読み聞かせなど実技指導と発表を行う。そこでの態度を授業への参加態度と反映する。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	講義・演習(グループワーク)および実技を中心として授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、ゲストスピーカーによる講話などを行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 保育の現場活動に向けて(1) 保育園の環境と一日の流れを理解する</li> <li>3 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義①」</li> <li>4 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義②」</li> <li>5 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義③」</li> <li>6 保育現場の活動に向けて園の方針・特色を知る「園長先生の講義④」</li> <li>7 スケッチブックシアターとは 保育教材の種類と特色を知る</li> <li>8 スケッチブックシアター制作(1) 構成を考える、下書きをする</li> <li>9 保育現場での活動に向けて(5) 準備物確認とその意味を考える</li> <li>10 スケッチブックシアター制作(2) 色を塗る</li> <li>11 産学連携 保育所見学①保育園の環境</li> <li>12 産学連携 保育所見学②子どもを観察する</li> <li>13 保育所見学振り返り 保育園見学で気づいたこと、感じたことを表現する イラストと文章</li> <li>14 スケッチブックシアター制作(3) 色を塗る</li> <li>15 エプロン名札デザインを考える</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	合唱と合奏 I		選択必修 2単位 講義	講師	石原 奈保子、国友 真知子、楠野 麻衣、白鳥 久代、藤村 秀子
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいくか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に着けていく。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・保育実習Ⅱに向けて生活の歌や現場ですぐ楽しめる曲を2～3曲、自らも楽しんで演奏することが出来る。(個人レッスン)	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に着け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	1年次と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノ等の個人レッスンと②合唱等のグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで各自確認する。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(①②に分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②コード伴奏等の基礎知識と演習 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法) 6 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②豊岡短大ソルフェージュの基礎演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズムを含む歌遊びの指導法研究 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズム楽器を楽しむ 12 ①ピアノ等による個人レッスン／②弾き歌いの指導研究 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(①②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(①②共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』トレミ出版 『ポケットいっぱいの子の歌』教育芸術社 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅡ 選択必修 1単位 講義		講師	菊池 一英
授業概要	子どもの遊びは生活そのものであることを学びます。また、様々な遊びを通して、保育実践力を身に付けます。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	1. 様々な身体表現遊びを経験し、子ども達の前で柔軟に対応できるようになる。 2. 実技とDVD視聴により、様々な遊びの指導方法を身に付けることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技種目への貢献度(30点)身体表現遊びの表限度(20点)	
到達目標2	3. 企画会議に参加し、独自の運動会を計画・立案する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	企画会議への参加度(30点)運動会の企画立案のプレゼン力(20点)	
授業方法	実技科目に参加する。運動会企画会議を立ち上げ、企画、立案をプレゼンテーションをする。			
授業計画	1 ふれあい遊びいろいろ(ラブラブ握手他) 2 身体表現遊びいろいろ(洋風おべんと箱他) 3 野外での集団遊び(探検ビンゴ！) 4 身体表現としての手遊びいろいろ 5 野外遊びのいろいろ<お陽さまこどもクラブ実践DVD視聴> 6 集団遊びいろいろ(ワン、ニャン、プー仲間よ集まれ他) 7 独自の身体表現プレゼンテーション 8 水遊びいろいろ 9 身体表現まねっこ歩き(BGMに合わせて表現) 10 運動会に向けての企画会議(1) 11 野外でのロープ遊びいろいろ<DVD視聴> 12 運動会に向けての企画会議(2) 13 運動会に向けての企画会議(3) 14 運動会に向けての企画会議(4) 15 運動会に向けての企画会議(5)(プレゼンテーション)			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %
	他者と関わる力	30% %	専門的知識・技術	20% %

## 2022年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講師	大須賀 かおり、国友 真知子、楠野 麻衣、渡辺 容子
授業概要	保育の現場において生活と遊びの中で様々に用いられる、わらべ歌、手遊び歌、リトミックソング、季節の歌や生活の歌等、知っておきたいレパートリーを多角的に演習していく。また、コードネームによる簡易伴奏の基礎を学び、現場での指導に活用できる力を養う。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・個人レッスンではハ長調の主要三和音を使った弾き歌いのレパートリーを2曲以上作る。 ・様々な子どもの歌の音程、リズム、ねらい等を学び、伝えたいことをしっかり表現する。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況・受講態度(50%) + 実技試験(50%) = 合計100% 実技試験課題については1か月前には担当講師と個別に検討を始めピアノ曲、弾き歌い各1曲を準備する。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	前期と同様にクラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、④ピアノ個人レッスンと⑧歌遊びのグループレッスンとを行う。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(④⑧に分かれて45分で入れ替わる)④の個人レッスンでは次週の各人の課題を担当講師と打ち合わせ、次週に向けての個人練習を続ける。 2 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧保育士の音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布します) 4 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法の演習) 5 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧手遊び歌やわらべ歌の演習 6 産学連携 7 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧童謡・唱歌などの子どもの歌の演習 8 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧和声の基礎とコード伴奏の演習 9 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧リトミックを含む歌遊びの演習 11 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携 13 ④ピアノ等による個人レッスン／⑧個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(④⑧共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください				
参考文献	子どもの指導法「音楽表現」豊岡短期大学 日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講師	森高 光広
授業概要	子どもの発達と成長を乳幼児から、未就学児、小学生までを中心に造形の視点から理解するとともに、簡単な制作を通して、子どもの手指の発達や感性の成長なども踏まえて、領域「表現」について考え、実践する力の基礎を身につける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの発達の段階による表現の特徴や違いを理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート対策も兼ねた設題に沿って資料や簡単な制作を通して具体的に理解できる。試験設問の事前学習や課題を行い、レポート対策練習や理解の定着度に基づき評価する。授業、制作の取り組み度(20点)、制作、課題内容の理解(30点)		
到達目標2	「造形表現」のねらいと意義を理解し、適切な素材や援助について考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	簡単な制作を踏まえて、テキスト内容に沿った課題の理解等についてレポート等で確認する。討論への貢献度(10点)、発表・レポート(40点)		
授業方法	テキストに沿って、適切な資料や参考文献などを示し、簡単な制作も含めて具体的に理解できるように指導する。ICT資料も活用する。				
授業計画	1 子どもとアート～体験から学ぶ テキスト;はじめに 第1章 2 絵を描く～お絵かき大好き 発達の段階と特徴① テキスト;第2章、第3章 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート 色鉛筆か色ペンまたはクレヨン 2色程度;色自由 3 絵を描く～子どもの視点 発達の段階と特徴② テキスト;第2章、第3章 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート 色鉛筆か色ペンまたはクレヨン 2色程度;色自由 4 つくってあそぼう～ちぎる テキスト;第4章、第5章、第9章 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート おり紙数枚 紙コップ のりまたは木工ボンド 5 確認課題;レポート対策① 6 絵の具遊び～指絵 テキスト;第6章、第7章 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート 絵の具(赤、青、黄、白あればよい) 下敷き 手拭き 7 確認課題;レポート対策② 重要点のおさらい① テキスト;第10章 8 絵の具遊び～スタンプ テキスト;第6章、第7章、第8章 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート、絵の具(赤、青、黄、白あればよい) 下敷き、手拭き、スポンジ(100円均一店 柔らかめ) おり紙2,3枚 9 つくってあそぼう～スポンジ人形 テキスト;第9章単実技 ※持ち物;木工ボンドスポンジ(100円均一店 柔らかめ)、布きれなど、はさみ、色ペン 10 つくってあそぼう テキスト;巻末 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート おり紙数枚 はさみ のり 11 指導案を考える テキスト;巻末 単実技 ※持ち物;印刷用紙かノート 紙コップ 輪ゴム はさみ のり おり紙;数色 色ペン 12 確認課題;レポート対策③ 重要点のおさらい② テキスト;第11章、第12章 13 確認課題;レポート対策④ 重要点のおさらい③ テキスト;第13章、第14章 14 つくってあそぼう～葉っぱスタンプの活用 テキスト;巻末 単実技 ※持ち物;葉っぱスタンプをした色画用紙(前時に説明) のり はさみ 色ペン 15 確認課題;レポート対策⑤ まとめ				
必須テキスト	「造形表現論」豊岡短期大学				
参考文献	幼稚園教育要領(平成29年3月告示、文部科学省)フレーベル館、149円(税別)ISBN 978-4-577-81422-2 保育所保育指針(平成29年3月告示、厚生労働省)フレーベル館、149円(税別)ISBN 978-4-577-81423-9 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示、内閣府/文部科学省/厚生労働省)フレーベル館、149円(税別)ISBN 978-4-577-81424-6				
担当教員の専門分野等	図画工作科教育・題材開発(造形、絵画、小学校図画工作、中学校美術、造形ワークショップ、協働造形活動) 国立千葉大学教育学部附属小学校、公立中学校、教員、保育士養成大学で教えてきた経験や各地で実践した子ども向けワークショップなどの経験を踏まえて、子どもの視点を大切にし主体的な楽しい造形活動について、具体的な例や簡単な制作を通して学んでもらえるように努めます。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2023年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・言葉遊びⅡ		選択必修 1単位 講義	講師	橋本 千鶴
授業概要	子どもの健全な心身の発達に深いかかわりをもつ豊かな児童文化財の中から、絵本・紙芝居・素話・人形劇・言葉遊び・わらべ歌・あそび歌などの言語表現活動に焦点を当てて、楽しみながら、保育活動への具体的展開方法や環境構成のあり方などを実践的に学ぶ。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	言語表現を豊かに育む児童文化財について積極的に学び、将来の保育者として必要な知識や技能を身につけることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、レポート・リアクションペーパー(50点)		
到達目標2	子どもの発達段階に適した絵本・紙芝居・素話・人形劇・言葉遊び・わらべ歌・あそび歌などを選定し、保育現場での展開を考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(10点)、発表(20点)、作品(10点)		
授業方法	グループワーク・ディスカッション等の体験や実技、模擬保育を中心に実践的に学ぶ。				
授業計画	1 オリエンテーション・言語表現を豊かに育む児童文化財①素話の紹介 2 言語表現を豊かに育む児童文化財②絵本の読み聞かせの練習 3 乳幼児の言葉の発達と言語表現 4 言語表現を豊かに育む児童文化財③人形劇の演じ方 5 子どもの言語表現指導法と指導案の作成 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「言葉」「表現」の内容 6 児童文化財による子どもの言語表現活動 言語表現を豊かに育む児童文化財④素話(模擬保育と振り返り) 7 言語表現を豊かに育む児童文化財の指導⑤絵本 8 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(1)絵本制作 9 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(2)絵本の読み聞かせ(模擬保育と振り返り) 10 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(3)言葉遊び・わらべ歌・あそび歌 11 言語表現を豊かに育む児童文化財の作成とその指導(3)言葉遊び・わらべ歌・あそび歌(模擬保育と振り返り) 12 年間指導計画への位置づけと指導案の作成・幼保小連携 13 言語表現を豊かに育む児童文化財⑥紙芝居の演じ方(1) 14 言語表現を豊かに育む児童文化財⑥紙芝居の演じ方(2)(模擬保育と振り返り) 15 オノマトペを使った言語表現・まとめ				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)、他授業で適宜紹介				
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・ことば分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー。大学等で言葉・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	15% %	
	他者と関わる力	15% %	専門的知識・技術	30% %	

## 2024年度 講義要綱

科目	保育実習Ⅲ	選択必修 2単位 外部実習	講師	実習指導授業担当
授業概要	各現場の指導プログラム、計画に従う			
授業目標	1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4. 実習における自己の課題を理解する。			
到達目標1	1. 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能、利用者ニーズと支援の実際を理解する 2. 個人の支援計画を理解し、多様な専門職との協働、業務内容、職業倫理を理解する 3. 現場における学びを記録、考察し、自己課題を明確化できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	「実習態度」「対象者の理解」「職員としての資質」の観点に基づく、現場職員及び実習指導担当教員による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	各施設職員の指導の下、現場で実務経験をする			
授業計画	1 ①現場職員による支援実践を観察し、活動に参加することを通して、支援全般について知る ②子ども・利用者の観察、関わりを通して、対象者への理解を深める ③実習記録を作成し、現場職員の指導を受ける 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%



## 2022年度 講義要綱

科目	保育の現場活動 選択 4単位 講義		講師	鈴木 八重子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者を目指すにあたりどのような知識や技術が求められるのかを知り、保育者としての職業意識を養い、高めることを目的とする。</li> <li>・保育現場での活動に伴う事前学習および振り返りを通して、保育全体への関心を広めていく。</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの保育現場活動を通して自分の課題と目標を明らかにする。</li> <li>・場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークについて理解する。場面や目的に応じた適切なブックトーク及びビブリオトークの技術を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術①」飯田有美)</li> <li>・子ども達の興味について理解する。絵本以外のメディアを知る。(認定:「子どもの心をとらえるもの」)細江幸世</li> <li>・「おはなし会」について理解する。「おはなし会」のプログラム作成及び運営に係る手法を体得する。(認定:「おはなし会の手法①」)近藤千春</li> <li>・今までの保育現場活動を通して自分の課題と目標を明らかにする。</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の本質、目的、意義を知り、保育者の意図を意識できるようにする。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。(該当科目3コマ)</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況(30%) + 課題提出(30%) + 授業への参加態度(20%) + 実技・ポスター発表(20%) = 合計(100%)	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習(グループワーク)および実技を中心とした授業を展開し、保育現場での活動(実践)、それに向けた自己学習および現場活動後の振り返り、成果発表会を行う。</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 前期の現場活動を振り返る</li> <li>2 保育園の環境構成を知る</li> <li>3 保育現場での活動に向けて(1) 環境構成図の記入の仕方と意味</li> <li>4 実習開拓 保育所の種類と特色を知り、自己開拓をする。</li> <li>5 【認定絵本士養成講座科目】「子どもの心をとらえるもの」担当:細江幸世</li> <li>6 保育現場での活動に向けて(2) 活動を時系列でとらえる</li> <li>7 【認定絵本士養成講座科目】「おはなし会の手法①」担当:近藤千春</li> <li>8 保育者の援助の種類と方法</li> <li>9 実習開拓 幼稚園の種類、特色を知り、開拓をする</li> <li>10 スケッチブックシアター(1)保育教材の検索の仕方を学び、制作する</li> <li>11 産学連携 保育所見学① 園内の環境を観察する</li> <li>12 産学連携 保育所見学②</li> <li>13 保育所見学振り返り(1) 保育園内で気づいたこと、感じたことを表現する</li> <li>14 保育園の1年を知る(1) 4月から9月</li> <li>15 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術①」担当:飯田有美</li> </ol>			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭または保育士としての実務経験があり、幼稚園教諭及び保育士資格をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。 ○近藤千春:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ者 ○細江幸世:絵本作家、子ども向け番組作成従事者、児童文化に精通した者 ○飯田有美:図書館や学校等においてブックトーク及びビブリオトークの実践経験をもつ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	教育課程総論		選択 2単位 講義	講 師	小澤 由理
授業概要	<p>本科目は、幼稚園(認定こども園)や保育所の教育(保育)がどのような道筋をたどって進められるかをその意義や役割を理解し、全体的な計画を示す教育保育課程についてと指導計画について理解をする。次に日本と諸外国の幼児教育(保育)カリキュラムの思想と歴史を学ぶ。最後に、保育におけるカリキュラム評価とその方法や教育保育課程編成の今日的課題を検討する。</p>				
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程・保育課程の意義や役割について理解する。</li> <li>・教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、意義や方法を具体的に理解する。</li> <li>・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を学ぶ。</li> <li>・教育課程・保育課程を編成するにあたっての手順、留意事項および評価・改善の方法について説明できる。</li> <li>・幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷を理解できる。</li> </ul>				
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領の改訂の変遷と内容の変化を理解し、教育課程の全体像を掴む。</li> <li>・教育課程の編成を理解するとともに、今日的な教育課程の課題について理解をする。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席(30%)＋レポート2本(50%)＋テスト(20%)＝合計(100%) 授業への意欲的、積極的な取り組みを期待し、評価する。		
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)			
授業方法	教科書を使用した講義形式が主に、パワーポイントを用いたプリントの配布および、ワード機能の活用やグループフォームを通じた課題提出などがある。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 教育課程・保育課程とは</li> <li>2 教育課程・保育課程の意義、レポートのルール</li> <li>3 教育課程・保育課程編成の留意点</li> <li>4 教育課程・保育課程の評価と改善</li> <li>5 【オンライン】レポート作成①</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 幼稚園教育要領と保育所保育指針の概要、幼稚園教育要領の変遷</li> <li>8 レポート返却、解説、修正</li> <li>9 保育所保育指針の変遷</li> <li>10 指導計画の種類、意義、計画の際の留意点</li> <li>11 【オンライン】レポート作成②</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 テスト対策</li> <li>14 テスト</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
必須テキスト	金岩俊明、田中亨胤、和田真由美(2020)『教育課程論』豊岡短期大学通信教育部 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』				
参考文献	適宜、提示する。				
担当教員の専門分野等	西洋および日本の女性教育史についての研究。保育実習指導に関する研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち学び続ける力	%	
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%	
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%	

## 2024年度 講義要綱

科目	教育実習 外部実習	選択 4単位	講師	実習指導授業担当
授業概要	幼稚園において4週間の実習を行い、現場教職員の指導を受ける			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>・観察や幼児とのかかわりを通して幼児への理解を深める。</li> <li>・既習の教科目の内容を踏まえ、幼児の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>・保育の計画、観察、記録及び自己評価などについて具体的に理解する。</li> <li>・幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の役割や機能、幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について説明できる。</li> <li>・計画に基づいた内容、幼児とのかかわりができ、幼児への理解を深め、記録することができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	自己管理能力、実習態度、研究意欲、記録能力、保育技術能力の観点に基づく現場教職員及び実習担当講師による総合評価	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	幼稚園教職員の指導の下、現場で実務経験をする。			
授業計画	1 ①現場教職員による保育実践を観察し保育に参加することを通して保育全般について知る ②幼児の観察、幼児とのかかわりを通して、幼児に対する理解を深める ③実習記録を作成し、現場教職員の指導を受ける。 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	教育実習指導 I		選択 2単位 講義	講師	鈴木 八重子
授業概要	幼稚園教諭免許状取得希望者は教育実習を行うことが必須である。本授業では学校で学習した知識や技能を生かしながら保育技術の取得、教師としてふさわしい態度を身につける。				
授業目標	幼稚園教育における教育内容、教師の職務、幼児の活動の内容とそれらの意味について理解する。 観察における留意点を理解し、事実在即して記述する力を身につける				
到達目標1	教育実習に臨む態度や目的意識を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点)授業内プリント記入・提出物(20点)		
到達目標2	観察における留意点を理解し、事実在即して実習日誌を記述することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験 50点 日誌の記入		
授業方法	幼稚園の基礎的な理解や実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、幼児理解をテキストや視聴覚教材を用いて行う。				
授業計画	1 教育実習の概要 2 実習の心得 書類作成 3 幼稚園教育の特色 4 幼稚園教育のねらいと内容の理解 5 幼稚園の一日の流れを知る・指導案の作成と実施への見通し 6 実習日誌の記入の仕方 7 部分実習指導案記入のしかた 幼児の実態とねらい 8 オリエンテーションについて 実習内容を具体的にイメージする 9 年齢毎の特徴 10 筆記試験 日誌の記入 11 日誌の記入の仕方確認 12 教師のねらいと援助のあり方 13 実習前確認 14 教育実習 I 振り返り 15 教育実習実習 II に向けて課題を明確にする				
必須テキスト	『フォトランゲージで学ぶ 子どもの育ちと実習日誌・指導計画』神水道美、萌文書林 『幼稚園教育要領』				
参考文献					
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2024年度 講義要綱

科目	教育実習指導Ⅱ	選択 1単位 講義	講師	
授業概要	講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意図を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学ぶ。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な教材研究を行い、部分実習指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> <li>・安全面と環境構成に留意した全日指導計画案の立案の仕方を理解する。</li> </ul>			
到達目標1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での観察や記録の仕方を理解し、指導計画を立てることができる。</li> <li>・立案した指導計画を実践するための教材研究や保育技術を考えることができる。</li> </ul>	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出欠席(30%)+授業への参加姿勢(30%)+提物の内容と提出期限の遵守(40%)=合計100%	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	指導計画の立案、実践、振り返りを行う。またテキストや視聴覚教材を用いて環境構成、ねらいと教師の援助の読み取り等を行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育実習Ⅱのねらいと内容の理解</li> <li>2 教育実習目標の設定、実習関係必要書類の確認</li> <li>3 幼稚園実習Ⅱにおける実習の流れと指導</li> <li>4 主活動の指導計画立案制作活動①</li> <li>5 主活動の指導計画立案制作活動②</li> <li>6 主活動の指導計画立案 ゲーム①</li> <li>7 全日指導計画立案①</li> <li>8 全日指導計画立案②</li> <li>9 実習直前演習 実習中のマナー、注意事項、連絡報告方法、健康管理について</li> <li>10 実習によって得られた知識と経験を振り返る①</li> <li>11 実習によって得られた知識と経験を振り返る②</li> <li>12 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける①</li> <li>13 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける②</li> <li>14 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける③</li> <li>15 教育実習について振り返りを行い、園からの評価をもとに指導を受ける④</li> </ol>			
必須テキスト	『3、4、5歳児の保育ガイド 実習お任せboo』 『幼稚園教育要領』			
参考文献				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭としての実務経験があり、幼稚園教諭免許状をもつ教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2022年度 講義要綱

科 目	保育に生かすやさしい手芸 選択 1単位 講義		講 師	酒井 暢子、高田 ちとせ
授業概要	軍手やフェルトなどで簡単に仕上がる作品づくりを通して、糸針仕事の練習をする。作品を保育の現場で生かせるように、わらべうた、童謡、詩などに合わせた演目で演じ方や遊び方を学ぶ。 【認定絵本士養成講座科目】を学び、絵本への理解を深める。「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(該当科目1コマ)			
授業目標	手縫いの基礎及び制作技術を習得する。手作りの人形を使って動かし方の基本を学び、子どもとのコミュニケーションの道具として活用できるようにする。 「おはなし会」のテクニックについて理解し、体得する。(認定:「おはなし会の手法②」)			
到達目標1	7つの作品を完成させ、制作技術を習得する。それぞれの作品の生かし方を学び、保育活動に応用できるようにする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み・出席(45%) + 作品・発表・レポート(55%) = 合計(100%) 【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②は課題の提出必須。出席+課題提出で、【認定絵本士養成講座科目】に出席となる。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	オリジナルの材料キットを用いて作品を制作。作品の生かし方や応用のアイデアを紹介し、実技指導を行う。 【認定絵本士養成講座科目】では制作した作品を「おはなし会」で活用できるように、演習を行う。			
授業計画	1 「グラブ人形 指ぶた」制作① 2 「グラブ人形 指ぶた」制作②、演じ方練習 3 手縫いの基礎①、「グラブ人形 指かえる」制作① 4 「グラブ人形 指かえる」制作②、演じ方練習 5 「ハンカチ人形」制作① 6 産学連携 7 手縫いの基礎②、「ハンカチ人形」制作②、演じ方練習 8 「ミトン人形 くま」制作① 9 【認定絵本士養成講座科目】おはなし会の手法②(おはなし会のテクニック)「ミトン人形 くま」制作②、「おはなし会」のテクニックの理解と演じ方練習 担当:高田ちとせ 10 演技練習・発表 11 「ミトンくまのベスト」制作 12 産学連携 13 「カップ人形 さる」制作① 14 「カップ人形 さる」制作②、演じ方練習 15 「ひまわりブローチ」制作 応用例の紹介			
必須テキスト	特になし 授業時に資料を配布 【認定絵本士養成講座科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献	『お話し会で楽しむ手ぶくろ人形』保育と人形の会/編著 児童図書館研究会/刊 『手ぶくろ人形の部屋』高田千鶴子/著 偕成社/刊			
担当教員の専門分野等	子どものための手作り人形など、作品の創作と演目の実践。 【認定絵本士養成講座】高田ちとせ:絵本に関する「おはなし会」の実践経験を10年以上持つ			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%

## 2023年度 講義要綱

科目	合唱と合奏Ⅱ		選択 1単位 講義	講師	
授業概要	1年次に学んだ子どもの歌を中心としたレパートリーについてどのように現場で子どもたちと楽しんでいか、自ら工夫しながら、コードによる簡易伴奏も含めより良い支援の方法を身に付けていく。簡易伴奏ではト長調、ヘ長調等の弾き歌いにも挑戦する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容とねらいを理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を自身のスキルに合わせて自ら工夫して実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	ハ長調以外のコードネームも理解し、ねらいに応じたレパートリー一曲をさらに2～3曲弾き歌いすることが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(50点)、実技試験発表(50点)		
到達目標2	環境、生活、人間関係等、様々なねらいに応じた歌遊びの現場での楽しみ方を身に付け、またハーモニー(合唱)を演習し、互いに聞き合い、協働の喜びを共有することが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(50点)、実技試験発表(50点)		
授業方法	前期と同じく、クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、①ピアノ等の個人レッスンと②合唱等のグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで各自確認する。オンラインの個人レッスンでは画面に手元を映すよう工夫すること。				
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(①②に分かれて45分で入れ替わる) 2 ①ピアノ等による個人レッスン／②合唱等のグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 ①ピアノ等による個人レッスン／②1年次にマスターした子どもの歌のレパートリーの確認。 4 ①ピアノ等による個人レッスン／②ハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のコード伴奏の基礎知識と演習 5 ①ピアノ等による個人レッスン／②現場で役立つ声の出し方(呼吸法と発声法) 6 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌教材研究 7 ①ピアノ等による個人レッスン／②豊岡短期大学『子どもの指導法「音楽表現」』ソルフェージュ課題の演習 8 ①ピアノ等による個人レッスン／②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 9 ①ピアノ等による個人レッスン／②2声・3声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズムを含む歌遊びの指導法研究 11 ①ピアノ等による個人レッスン／②リズム楽器を楽しむ 12 ①ピアノ等による個人レッスン／②弾き歌いの指導研究 13 ①ピアノ等による個人レッスン／②個人レッスンによるアドバイス 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導(①②共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(①②共)				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいのお歌』教育芸術社 『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学 ※対面時は”有線イヤホンorヘッドホン”をお持ちください				
参考文献	日本児童教育専門学校編「はじめての弾き歌い」				
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。音楽、ピアノ、合唱指導、リズム指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10% %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10% %	
	社会人としての基本	10% %	主体性 素直 思いやり	20% %	
	他者と関わる力	10% %	専門的知識・技術	40% %	

## 2024年度 講義要綱

科 目	ピアノ I 選択 1単位 講義	講 師	音楽科担当講師	
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。また教育実習でも使用する季節や生活の歌等のレパートリー曲を演習し、準備する。引き続き豊岡短期大学のスクーリング試験対策も個別に行う。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・本校編『はじめての弾き歌い』を中心に、コードネームによる簡易伴奏が即興的に出来る。 ・大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況・授業態度(50%) + 実技試験(50%) 実技試験発表曲: 早めに担当講師と検討し、弾き歌い2曲(1曲はピアノ曲でもよい)を演奏する。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。			
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』 ・『子どもの指導法「音楽表現」』豊岡短期大学			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%



## 2024年度 講義要綱

科目	ピアノⅡ 選択 1単位 講義		講師	音楽科担当講師
授業概要	保育内容として音楽遊びを取り扱う際に、鍵盤楽器が担っている役割を理解し、子どもとの関りの中でより生き生きと楽しく指導できる技術を養う。レパートリー曲を互いの伴奏で歌ったり、ねらいに相応しい導入やまとめ等も考えて演習する。採用試験の各自の課題対策も行う。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・ト長調、ニ長調、ヘ長調等、ハ長調以外の簡易伴奏のレパートリーを作る。 ・大きな明るい声、はっきりした言葉で表現豊かに弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	出席状況・授業態度(50%) + 実技試験(50%) 実技試験発表曲: 早めに担当講師と検討し、弾き歌い2曲(1曲はピアノ曲でもよい)を演奏する。	
到達目標2		到達目標2に対する評価 (方法及び配点)		
授業方法	自分のスキルに合わせた課題を担当講師と検討し、現場でのレパートリーとしていつでも演奏できる曲を増やしていく。個人レッスンとともに随時グループでの聞き合いや歌い合う演習も行う。			
授業計画	1 小グループに分かれて担当講師とのオリエンテーション 2 個人レッスン 3 個人レッスン 4 個人レッスン 5 個人レッスン 6 個人レッスン 7 個人レッスン 8 個人レッスン 9 個人レッスン 10 個人レッスン 11 個人レッスン 12 個人レッスン 13 個人レッスン 14 演奏発表の為のリハーサルと個別指導 15 演奏発表による実技試験と振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	・1, 2年次に使用した教材・本校編『はじめての弾き歌い』			
担当教員の専門分野等	専任: 木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱、リトミック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	%
	社会人としての基本	%	主体性 素直 思いやり	%
	他者と関わる力	%	専門的知識・技術	%